

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0493600019
法人名	社団医療法人 啓愛会
事業所名	グループホームはまゆり
所在地 (電話番号)	宮城県本吉郡南三陸町志津川字袖浜255 (電話) 0226-46-5881
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年2月13日

## 【情報提供票より】(20年1月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造平造り	1階建ての階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	1日 500 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

### (4) 利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	7 名	男性	4 名	女性	3 名
要介護1	4 名	要介護2			名
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 86 歳	最低	81 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立志津川病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南三陸国定公園指定地内を開発した土地を志津川町から提供され、同法人の老健施設と併設され、開設2年目のグループホームである。11月から交代した管理者は自然に恵まれた環境を生かし、ルールにとらわれず入居者、家族の関係を維持し、思いに添って支援していきたいと話してくれた。管理者が看護師であり、協力病院との連携も整うなど、医療面での体制も万全である。又様式を変更するなど記録の整備に努め、ケアプランの作成、見直し時には担当職員と話しあい、ニーズに添ったものとなるように努めている。専用の車両配備が未だであり、用地の関係でホームの拡張やユニット増設が出来ないなど、運営面での困難さもうかがえるが、管理者の意気込み、職員の和、関係者の見守りが感じ取れ、陽射しと共に明るいホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームの表札を入居者との手作りで掲げ、浴室入口への支持棒の取り付け、郵便受けの設置も済んでいる。また、適切なケアプラン作成につなげる記録の整備については、11月から「センター方式」をとり入れ、改善実施に取り組み中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を全職員に渡し、評価に取り組み後、管理者がとりまとめた。前年度評価での結果を真剣に受けとめ、入居者の安全を優先して改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に定期的開催され、会議での成果として、委員からの紹介による踊りや話し相手のボランティアが来所されたり、老人会行事への参加の呼びかけや区長さんによる地域の方々への「便り」の配布などがある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や手紙、電話での聞き取り、「ご意見箱」の玄関への設置など、手段を講じて意見、相談を取り入れ、運営、サービスに反映していこうとする姿勢がみられる。一人暮らしからの住み替えや、男性が多く、また年齢も平均86歳と高い、このホームの特性もみられ、今後家族、知人との関係強化は非常に大切になると思われる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学校の運動会への見学、ボランティアによる慰問など行なわれているが、継続しているとはいえ不十分である。しかし運営推進委員の助言、指導を活かし、積極的に地域と交流していこうとするホームの姿勢はうかがえる。季節毎に発行を始めた「グループホームはまゆり」の地域住民への配布もその一つであり、区長さんの協力を得て実施している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年4月のグループホーム開設時に、前管理者がスタッフ等の意見も入れ作成したホーム独自の理念である。2年を経過しより地域との交流をもちこみ、親しみ易く分かりやすい新しい理念作りに取り組もうとしている。	○	現在の理念は「持てる身体機能を活かし、自分らしく、健康で、安心して、安全に」等々であるが、住み慣れた地域で、馴染みの人々との交流など、地域との関係性も理念の中に掲げ分り易くしようとしているので期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を事務所など常に目に触れる場所に掲示し、ミーティングの時など唱和し、常に意識してケアに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はまだである。同法人の老健施設と一角をなしているが、住宅地からは離れている。地域の防災訓練に参加し小学校の運動会への見学、踊りや話し相手のボランティアの訪問などあるが、継続して取り組めてはいない。野菜等のおすそ分けなどあるが、管理者はこれからだと話している。	○	運営推進会議の委員として、区長さんは積極的に情報の取次ぎをしてくれる。管理者、職員は、地域の老人会行事への参加や、町の文化祭での入居者の作品展示なども考えておられるので、今後に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を全職員に渡し、全体会議でとりまとめた。前回評価を厳しく受けとめ、入居者の安全面を優先し取り組み、浴室入口の支持棒の設置等が行なわれている。入居者手作りのホームの表札の設置もされ、入居者の情報把握のため、11月からはセンター方式に移行しているなど努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に定期的に会議を開催し、委員と意見交換を行なっている。その中で委員の紹介により踊り、話し相手のボランティアが来所されたり、老人会参加への声かけや、家族からの意見も出されている。ホーム便りも季節毎に発行し区長さんの協力により近隣の家庭にも配布されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南三陸町で唯一のグループホームであり、土地は町から提供されている。ホームへの直接の関わりの窓口は、包括支援センターであるが、運営推進会議には町の担当課長も共に出席し、助言、指導に当たっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した時は入居者の近況や行事での様子を伝え、金銭管理の確認もされている。毎月請求書の送付時にケア担当職員が手紙を書き、報告もし、職員の異動について、季節毎の便りでお知らせをしている。訪問時間のとりにくい家族への報告について不十分と認識しており、今後個々に取り組んでいくと話している。	○	一人暮らしからの住み替えとなった入居者が多く、家族も甥、姪の若い世代は仲々時間もとれない等の事情もあるようだが、訪問できにくい家族への報告の方法として、電話や手紙での対応をより積極的に行ないたいとしている。家族会もまだないので結成への取り組みも望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族代表者は出席しても、要望など出ることは少ない。玄関には「ご意見箱」も設置し意見、要望の引き出しに努力し、運営等に反映していきたいと工夫を重ねている。	○	入居者や家族の意見、不満、苦情の反映に努め、積極的に雰囲気、環境作りに努力しているが、なお継続して取り組んでいただきたい。重要事項説明書に相談、苦情への対応窓口としてホームの電話番号や時間が明記してあるが、より分かり易く担当者名も追記し、第三者委員への窓口も記載されることが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の異動時は入居者には自己紹介などを行ない、スムーズに受け入れられており、現況ではダメージはみられない。異動時、家族への報告は従来少ない面もあったようだが、現在は季節毎に発行している「グループホーム・はまゆり」でお知らせしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宮城県のグループホーム連絡協議会に加入し、交流参加に努めている。県主催の研修や同一法人内研修への受講を極力支援し、受講後は報告し、知識、技術の共有を図っている。又個人の資格取得への勤務面での支援も今後行なっていきたいとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一敷地内にある老健施設との交流は日常的であり、グループホーム連絡協議会での活動もある。地理的な面での困難さもうかがえるが、管理者は今後も他地域のグループホームとの交流活動も進めていきたいと考えており、職員と工夫を重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の申し込みは包括支援センターを経由してくるのが殆どである。管理者が実調し、入居者には遊びに来てもらい入居を開始している。一人暮らしからの入居時には、必ずしも十分に時間をかけて馴染んでもらう余裕がないケースもあるが、今後もできるだけ工夫し十分に馴染んでからの入居に努めているとしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物の取りいれ、たたみ、調理手伝い、後片付け、歌詞を大きく手書きし、全員で唄うなど一人ひとりの生活歴を把握し、得意分野で力を発揮してもらいながら、共に生活している。「人生の先輩を敬い、生きる智恵を学びます」の理念を実践している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人暮らしからの入居者が多いが、実調や訪問時の近所の方の情報や、紹介者の包括支援センターからの情報、通所利用時の様子など、生活歴の記録を行ない、本人の思いや希望を把握している。意向など把握困難な入居者もいるが、日々の行動、表情の中からくみとり支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	11月から「センター方式」のシートの活用に取り組み実施途中である。1か月に1度ケア会議でモニタリング、カンファレンスを実施し、本人、家族の意見も反映し、よりニーズに添った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	面会の少ない家族等には電話で介護計画について話し合い、3か月毎に計画見直しの検討をしている。本人、家族からは「このままでよい」の声が殆どであり、コミュニケーションのとりにくい場合もあるが、ケア会議で評価しながら必要な介護計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊は自由であり勧めている。通院時は原則家族で行なうが、職員が支援するケースもある。デイサービスへの取り組みは、ホームのスペースに余裕がなく出来ないが、ショートステイへの対応については、条件が合致し、希望があれば対応したいとしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の全家族が、かかりつけ医を希望し、そのように支援している。通院の際は原則として家族が行なっているが、緊急時には家族の承諾を得て協力医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けてのホーム、関係者との話し合い、指針等の作成はまだであり、体制としても整っていない。ホームとしての方針の統一や取り組みはこれからである。	○	軽症の入居者が多く、健康状態も落ち着いていることもあり、重度化、終末期へのホームの対応はこれからだとしているが、早期に話し合い関係者全体の方針の統一と準備が望ましい。看護師も配置されており、入居者にとって心強いが、まずは指針の表明や意思確認まで、話し合いを経つつ準備することを望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
い					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「人生の先輩として敬う」の理念が実践され、「さん」付けの呼び掛けがみられ、トイレへの誘導時もトーンを落として声掛けしているなど配慮が感じられる。季節毎に発行している「グループホームはまゆり」への写真掲載時は家族からの承諾をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問時居間には1～2名の入居者のみで、他の入居者は居室で自由に過ごしている。「もつと皆が集うようにしたいのだが、本人のペースもあるから」と職員は話している。起床、入浴など本人のペースを大切にしているが、食事は一緒に摂っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	仕入れを近所の商店で行ない、献立は好みを聞きながら決めている。正月、節分、ひな祭りなど行事食の企画はローテーションで行なっており、入居者・職員に教わりながら不慣れな料理作りに取組む若い男性職員も仲々の人気だという。職員も同じ物を食し、楽しみながらの食事風景が見られるように取組みもお願いしたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性の入浴日、女性の入浴日を決めて交互に行なっている。夏季には遅番の勤務時間を延長して、夜間入浴を試みるなど、希望による入浴支援に向け努力しているが、今後も毎日の入浴支援ができるような、勤務体制などへの継続した努力もお願いしたい。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関前に掲げている「はまゆり」の表札は入居者が書いたものである。クリーニングを生業とした入居者は洗濯物の取りいれ、たたみ、料理の得意な方は調理を手伝う等、一人ひとりができる力を発揮し、役割をもって生活している。「書初め」で全員が取り組んだ作品がホーム内に掲示されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム周りの散歩や、食材の買物時に一緒に出掛けている。ホーム専用車はないが、美容院など馴染みの店への個別の外出やドライブに努力して取り組んでいる。ドライブ等の遠出の際には、デイスービスが休みの時に行っており、今後は家族一緒の機会も工夫したいとしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に出入りできる。一人ひとりの行動パターンは把握できており、家族に電話を掛けたりするなど、一人で外出しそうな気配が感じられた時は、事故につながらないように職員同士が連携を図り、見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同じ敷地内の老健施設と合同での避難訓練は実施したが、ホーム独自の避難訓練は、予定はあるものの未実施である。	○	消防署立会いで避難訓練は、通報、消火、避難誘導を実施する計画があり、夜間想定も含め間もなく実施予定である。近隣に人家はなく、老健施設が向いに建っているのみであるが、地区の婦人消防隊にも協力をお願いし、万に備えたいとしている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個別記録でチェックし、一日のおよそのカロリーは把握している。1か月に1度体重を測定し、大幅な増減がないように配慮している。今年栄養士が異動し、専門的な視点での指導、助言はまだである。	○	入居者の身体状況、嗜好にも配慮し、献立も希望をいれながら提供されているが、栄養士の異動で、以前出来ていた専門的な視点からのチェックが得られていない。食事に関して、今後も定期的に継続した栄養バランスのチェックや全体的な助言を得られることが望ましい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は自然の光があふれ、外に目をやれば緑と広々とした空間が広がっており、静かで環境に恵まれている。ホームの間取りに余裕はないが、工夫がこらされ、洗面所、居間、浴室の設えは家庭的なものであり、観葉植物を置き、トイレにはさりげなく花を飾り、落ち着いて安らげる生活への配慮が感じられる。冬期は床暖房の実施と共に、乾燥に配慮し加湿器を使用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある造り付けのベッドは床面から低く据えられ、支えもあり立ち上がり易く工夫されている。男性が多く、一人暮らしからの住み替えの方も多いため馴染みの品の持ち込みは多くないが、収納スペースが広いのでさっぱりとしており、テレビを持ち込み居心地よく過ごしている。		